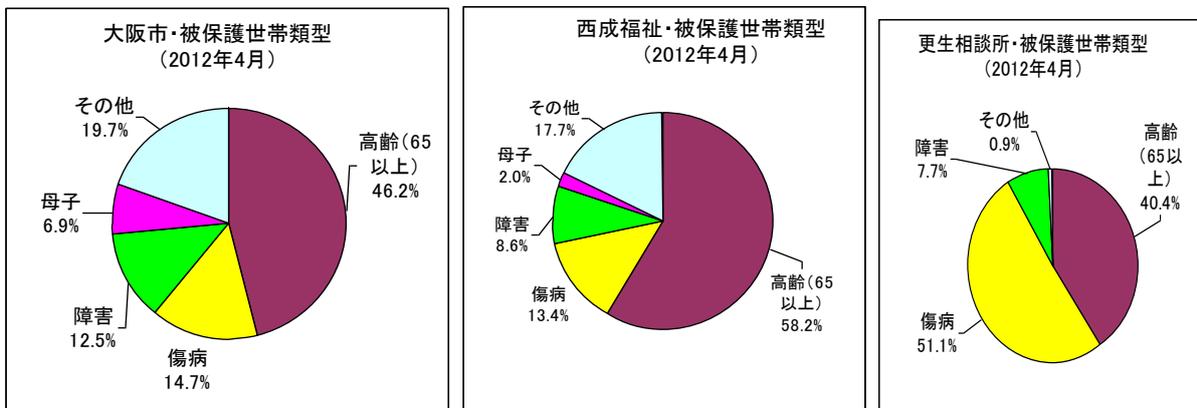


生活保護と就労関係の参考資料

20120807 西成特区有識者座談会
原 昌平

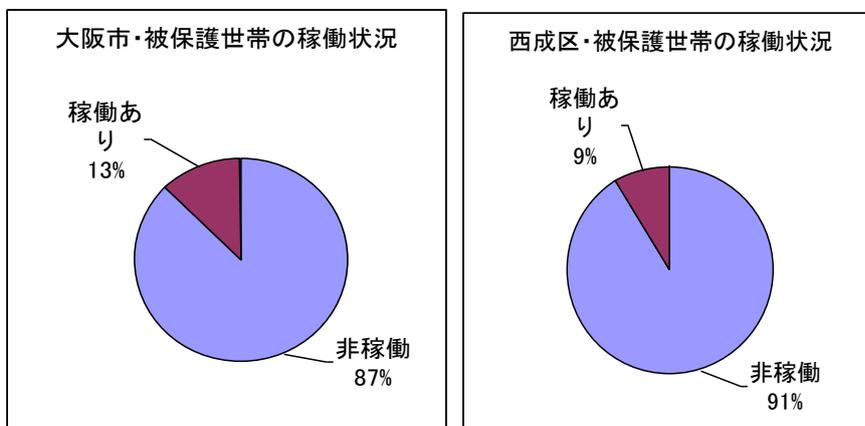
◆生活保護 西成区の特徴

- ・西成区の生活保護は、更生相談所1525人を含めて約2万7000世帯、約3万人。
- ・西成福祉は、大阪市全体と比べて、高齢者世帯の割合が高い。
- ・傷病・障害の世帯を含めると80%を超えている。
- ・「その他」「母子」の世帯は20%弱、5015世帯にとどまる（2012年4月）。



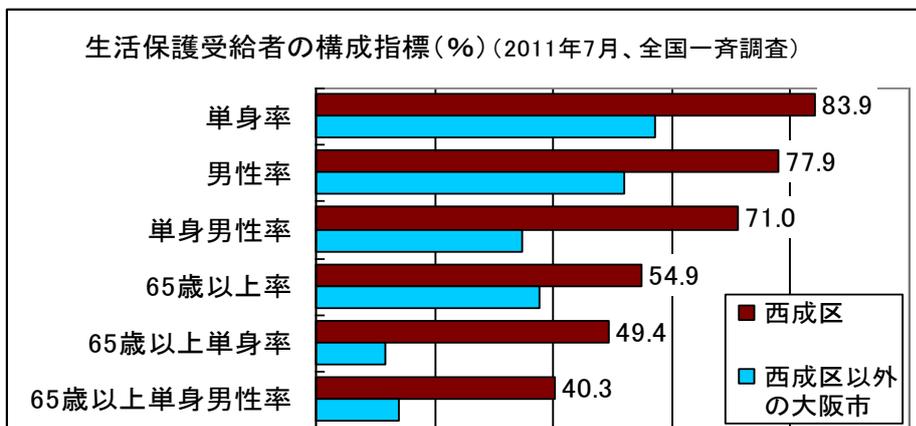
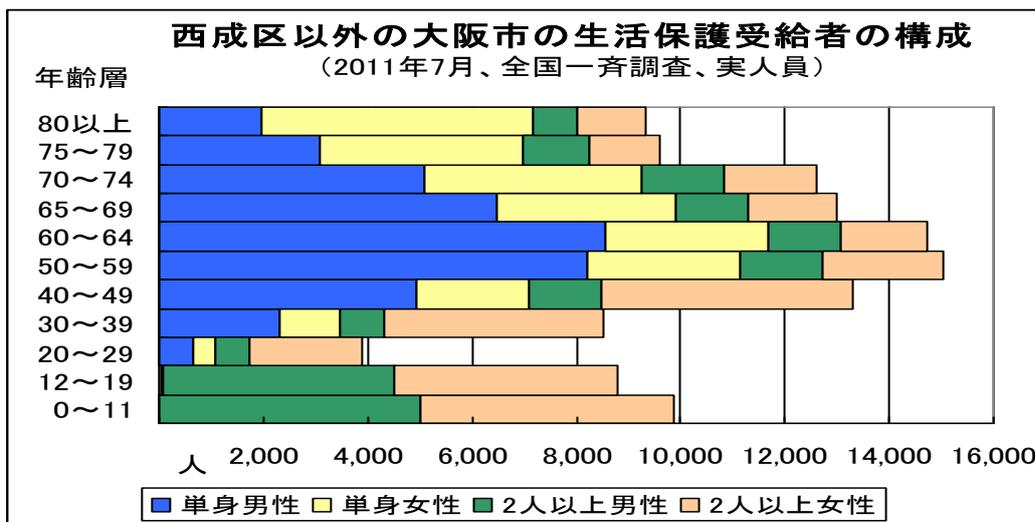
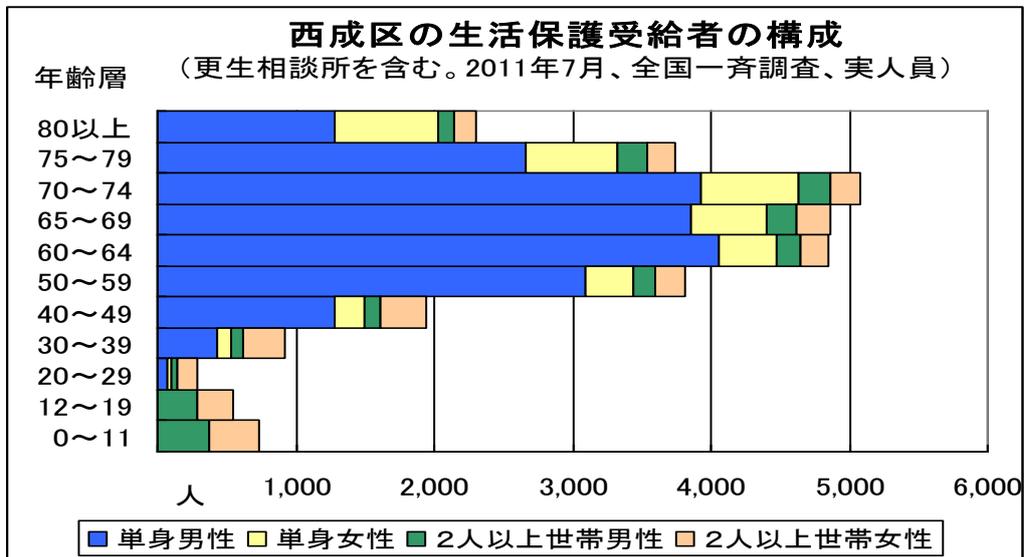
◆就労すべき人数の規模

- ・大阪市は60歳以上を高齢者扱いしている（厚労省の統計では高齢者世帯は65歳以上）。
- ・実は、60～64歳の人数がかなり多い。
- ・60歳未満に絞ると、「その他」「母子」の世帯は、2827世帯（2012年4月）。
- ・全体のうち稼働世帯は2199世帯（高齢・傷病・障害でも働いている場合がある）。
- ・いずれにしても、新たに就労を求めるべき世帯は、それほど多くはない。
- ・生活保護受給者向けに求められる雇用は、1000～2000人分ほどではないか。



◆生活保護受給者の構成を詳しく見ると・・・

- ・世帯の人数・性別・年齢分布を、実人数ベースでグラフ化した。
- ・西成区は、単身・男性・高齢の割合が極めて高い。他の区と大きく異なる状況である。
- ・高齢に該当しなくても、50～64歳の高い年齢層の単身男性が多い。



◆若年層の生活保護は急増しているのか？

- ・保護開始時の年齢データを見ると、40代～60代の中高年が主体である。
- ・西成区の動向は、大阪市全体と大差がない。
- ・30代以下の若年層は、2009年度からやや多くなったが、急増というほどではない。
- ・若年層の増加に注目するのは理解できるが、過剰に見積もるべきではないだろう。

